

# PEACE GOURD



9条の会・養老  
会報、第32号  
2021年11月16日  
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

岸田新首相になったけれど・・・・・・・・

安倍、菅政治の9年間の反省がなく、そのまま続きそうです

マスコミが、自民党の総裁選を連日、多くの時間をとって報道し、安倍、菅政治の9年間の総括や反省が無いまま、なんとなくソフトなイメージの岸田氏が次の自民党の顔になり、今までよりは良いことをしてくれるのではないかと期待させました。

ご祝儀相場の内閣支持率が高いうちに、コロナが落ち着いているうちに、いろいろぼろが出ないうちに国会を解散して、選挙にしまいました。

その結果、自民党は議席を減らしたものの単独過半数を維持し、自民と立憲民主の減少分を維新の会が吸収するという結果となりました。

9条の会としては、平和憲法を変えようとする自民党に対して、憲法9条を守ろうとする立憲野党（立憲民主、共産、れいわ、社民）の共闘におおいに期待していました。

289の小選挙区の7割で候補者の1本化ができ、62の選挙区で自民党の現職や元幹事長に競り勝ったものの、多くのところでは競り負けてしまいました。野党共闘の政策や本気度が、今の政治に様々な疑問を感じている人々の理解や共感をまだまだ得られなかったことを反省しなければなりません。しかし今の小選挙区の下では野党が結束しなければ与党に勝てません。この道を進めていくしかないでしょう。

本格的な野党共闘ができて初めての1回戦は与党に1点取られた。2回戦めの来夏の参議院選挙では1点返すために一層の工夫と努力がいることでしょう。

安倍前政権で外務大臣など重要なポストで協力した岸田新首相、安倍氏に忖度して、「森友の再調査をする」といったのに一晩で撤回しています。

科学無視で多くの犠牲者をだして迷走したコロナ対策。憲法を無視して強行した安保法制、民意無視の辺野古米軍基地の建設、学会会議会員の根拠も言えない任命拒否等々の強権政治。そして河井克行、安里氏など7人以上の閣僚らが辞任した金権腐敗政治。このまま続けるわけにはゆきません。

世話人 中野一美



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

11/3 「ぎふ平和のつどい」に参加して

世話人 問山尚義

先日11月3日、文化の日に「ぎふ平和のつどい」に行ってきました。会場の岐阜市民会館は一席おきに間隔をあけての着席で、満員の聴衆でした。私は今年で通算三回目の参加になります。

昨年はコロナ禍で中止となり、今年も9月時点では一旦中止の決定がなされていたのを、講演者である金平さんの後押しもあり一転開催となったものです。

★第1部はピアニストの崔善愛（チェソンエ）さんによるピアノ演奏とトーク。崔さんは日本生まれ日本育ちの在日2.5世、自らの母国は日本、国籍は韓国と語っておられました。

ショパンは太田胃散のCMで聴きなじみがあると思います。「ピアノの詩人」と呼ばれるように、一般的にサロンで聴くような穏やかな曲の作曲家とのイメージが強いが、実は彼の曲には荒ぶる闘争心が秘められているとのこと。

ショパンの母国はポーランド。崔さんが最後に演奏されたスケルツォには、帝政ロシアの支配を受け、西にはドイツ帝国に挟まれ、緩衝国家（バッファステート）の悲哀からの解放を渴望するメッセージが込められているようです。西に大中華帝国、東に倭国（日本）を臨む緩衝国家としての朝鮮半島をポーランドに投影されていたのかなと、勝手な感想です。

★第2部の講演者は、テレビの「報道特集」でおなじみ、キャスターの金平茂紀さんでした。金平さんは予定した講演内容とは別に、三日前の総選挙の結果に触れないわけにはいかないと、このような結果をもたらした責任の一端に、現在のマスコミ状況があると指摘していました。

「被害者の立場で語れ」「少数者を包摂しろ」「課題設定に注意を」「権力の監視役であれ」、金平さんが師と仰ぐ故筑紫哲也さんの教えを引用しながら、自分のようなジャーナリストを「絶滅危惧種」と自嘲気味に揶揄されていましたが、「来年の参院選と同時に憲法改正の国民投票を」（維新、松井代表）と、こんな発言こそ重大発言として、マスコミは問題にしなければいけないと結んでいました。



崔善愛 さん  
1959年兵庫県生まれ  
ピアニスト  
21歳で外国人登録証の  
指紋押捺拒否  
その後裁判を経て  
1999年原状回復

※ショパン：1810～1849  
ポーランドの作曲家

※スケルツォ  
ショパンによって確立された  
楽曲の形式



金平茂紀さん  
1953年北海道生まれ  
ジャーナリスト  
1977年TBS入社  
2010年より「報道特集」  
キャスター  
早稲田大学客員教授

当日の「平和の集い」の様子は全編約1時間半が、You Tubeにアップされています。Movie Iwj で検索して下さい。



# 大垣市街地の戦跡巡り 続の3 市街地に見る (最終)

高木正一 (空襲体験を語りつぐ大垣の会事務局長)

大垣市役所新庁舎から少し南の信号交差点を左に折れると、広い通りがあり、そのまま東に進むと通りが狭くなります。ここは俵町の通りです。なぜ、広いところと狭いところがあるのでしょうか。推理してみてください。

狭い通りに入ると、槌谷柿羊羹 (現在は「つちや」) があります。その看板は、戦前からのものです。この通りは、現在は、かなりの家々が建て替わってしまっていますが、槌谷柿羊羹の他にも、鈴木栄光堂など、昔ながらの建物を見ることができます。

俵町を抜け、同じく美濃路の竹島町に入っても、同じような雰囲気を感じられます。



昭和16年頃の槌屋 (上) と現在の槌屋 (右)

そこから、新町に入ると大運寺というお寺があります。そこには、セメントの鐘が置いてあります。もちろん、鳴らすことはできません。戦時中、鉄砲や戦車、軍艦などの建造のために金属を差し出すよう命じられました。金属供出といいます。そのため、生活用品などもかなり瀬戸物で代用されるということがありました。瀬戸物の学生服ボタン、瀬戸物のキセル (って言っても分からないかな)、瀬戸物の缶詰、等々、金属が生活から消えました。

大運寺⇒

お寺の鐘も例外ではなく、供出の対象になりました。このかなり重い鐘が鐘撞き堂からなくなるとバランスが悪くなり、倒れる危険性もあります。そこで、代用の、セメントの鐘を吊っていたわけです。



セメントの鐘は、藤江高架橋を南に降りた伝馬町交差点の北東側にある明寂寺、安井町の縁覚寺 (1960年頃までは本町2交差点から少し南にありました) などにもあります。



縁覚寺



明寂寺

-4- へ続く

旧21号線、本町2交差点の少し東に、本町橋という牛屋川に架けられた橋があります。その親柱は、セメントでできた砲弾をかたどったものです。昭和初年の建設で、銘板などが取り除かれています。おそらく戦意高揚を意図したものだろうと思われます。

水門橋\_親柱・欄干 ⇒

戦跡巡りの終点が、現在の守屋多々志美術館です。これも、戦前からの建物で、戦前から戦後にかけて丸物、共栄、マルイなどの百貨店が入っていました。屋上には遊園地もありました。この郭町交差点あたりも、空襲の猛火にさらされましたが、頑丈な鉄筋コンクリート製の構造そのものは健在です。この建物も、戦火を見てきた証人の一つです。



丸物  
守屋多々志  
美術館  
(現在)



戦前の丸物

## ◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

- ★西濃母親大会 11月23日(火) 13時30分 情報工房スィンクホール
- ★ぎふコラボ・友の会総会 11月27日(土) 13時 スィトピアセンター
- ★大垣市街地戦跡巡りウォーキング 12月7日(火) 午前9時スタート  
場所：大垣市東外側駐車場集合  
主催：9条の会・養老 別刷りチラシあり(雨天時は9日に延期)

### 編集後記

原因がよくわからないままの不気味さを内包しつつも、新型コロナの新規感染確認者が減少に転じ、久しぶりのイベント企画となります。

「大垣市街地戦跡巡り」の記事は今号で最終になり、その仕上げとして、戦跡巡りウォーキングを企画しました。会員以外の方の参加も歓迎です。お誘い合せの上ご参加をお願いします。

世話人 問山尚義

### 連絡先

「9条の会・養老」世話人  
090-9183-0444 中野一美(代表)  
090-9894-0444 佐竹 哲  
090-2348-0719 問山尚義  
090-8733-0090 禿 憲正  
fax(問山)  
0584-71-8746  
E-mail(問山)  
toiyama@ninus.ocn.ne.jp